

種生物学会ニュースレター

The Society for the Study of Species Biology Newsletter No. 56



第55回 種生物学シンポジウム (愛知) のご案内 1
第54回 種生物学シンポジウム (つくば) の記録 5 / 事務局からのお知らせ 7 / 会計報告 8

第55回種生物学シンポジウムのご案内 (オンサイト/オンラインハイブリッド・愛知)

<https://sites.google.com/view/sssb55symposium/>

第55回となる本年度の種生物学シンポジウムは、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行することを受けて、オンラインポスター発表とともに、久しぶりに合宿形式で開催したいと考えております。開催地は、愛知県岡崎市にある愛知青年の家（愛知県岡崎市美合町並松1-2）を予定しています。

今回の合宿形式でのシンポでは、研究交流の場として、ポスター会場や野外でのキャンプファイヤースペースを設ける予定です。学会員の方は、本ニュースレターの案内に従って参加申し込みをしていただければ、どなたでもご参加、ポスター発表していただけますので、久しぶりに夜遅くまでの議論をお楽しみください。

なお、いくつか例年と大きく異なる点があります。まず、シンポジウム本体はオンライン配信も同時に行う予定です。2点目として、ポスター発表を、シンポジウム本体の1週間前の11月25日（土）にオンラインで開催し、その際、ポスターフラッシュを行う予定です。ポスター各賞は、オンラインでの発表をもとに決定されることとなりますが、対面での議論を深める研究交流の場として、翌週（12月1-3日）のオンサイトでもポスター会場を設けております。3点目として、昨年に引き続き、今回はシンポジウムのテーマは和文誌企画1本となります。なお、プレシンポジウムについては、今回はオンサイト1日目の夜に実施する予定です、愛知教育大学の星博幸

申込締切は 10月27日（金）です

※ ポスター発表要旨登録締切は11月3日（金）
※ 当日参加は受け付けませんので、ご注意ください

先生に、「地質の空間分布の多様性」、愛知教育大学名誉教授の芹沢俊介先生に、「種生物学研究の基礎としての種分類学」、というタイトルで地質学や分類学の立場から種生物学研究のおもしろさを掘り下げるヒントになるお話をしていただける予定です。

今回のシンポジウムのメインテーマは、「古くて新しい島の生物学」です。昔から進化研究の場として注目されてきた島嶼に改めて着目し、そこに生きる様々な生物群のおもしろい生態や進化のしくみ、保全など多岐にわたって議論を深めます。さらに今回の新しい試みとして、和文誌シンポジウムの後に、発表者との交流のための懇親会を企画しています。

今年は、いよいよ合宿形式の復活で、親密な交流を大前提としてきた種生物学シンポジウムで、みなさまが温めてきた、とっておきの研究を持ち寄り、種生物学会らしい白熱した議論に花を咲かせていただければと思います。みなさまどうぞ奮ってご参加いただきますよう、よろしくお願いたします。

● 開催方法 ※開催方法については今後、一部変更する可能性があります。

オンサイト開催：委員会、プレシンポ、和文誌シンポ、総会・授賞式、受賞講演、ポスター発表（希望者）

オンライン配信：ポスターフラッシュ、プレシンポ、和文誌シンポ、総会・授賞式、受賞講演

LINC Biz : ポスター発表コアタイム

● 全体のスケジュール ※変更になる場合があります。最新情報は参加者へメールでお知らせします。

11月25日（土）（オンライン開催・配信あり）

13:00-13:15	全体説明	
13:15-14:00	ポスターフラッシュ	
14:00-15:30	ポスター発表（コアタイム奇数）	LINC Biz
15:30-17:00	ポスター発表（コアタイム偶数）	LINC Biz

- 12月1日(金) (オンサイト開催・プレシンプのみオンライン配信あり)
 13:00-18:00 各種委員会
 18:00-19:00 夕食
 19:10-20:30 プレシンプジウム・座談会
- 12月2日(土) (オンサイト開催・ポスター発表以外オンライン配信あり)
 7:30-8:30 朝食
 8:30-9:45 ポスター発表(コアタイム奇数) オンサイトのみ
 9:45-11:00 ポスター発表(コアタイム偶数) オンサイトのみ
 11:00-12:00 片岡奨励賞受賞講演
 12:00-13:00 昼食
 13:00-14:30 総会・授賞式
 14:30-14:40 写真撮影
 14:40-17:20 和文誌編集委員会企画シンポジウム「古くて新しい島の生物学」 第1部
 17:30-18:30 プレ懇親会：キャンプファイヤー
 18:30-20:30 懇親会
 20:30-22:00 交流会(ポスター会場)
- 12月4日(日) (オンサイト開催・オンライン配信あり)
 7:30-8:30 朝食
 9:00-12:20 和文誌編集委員会企画シンポジウム 第2部
 12:20-13:20 昼食
 13:20-15:30 和文誌編集委員会企画シンポジウム 第2部(つづき)
 15:40-16:30 和文誌シンポ懇親会

● 和文誌編集委員会企画シンポジウム

「古くて新しい島の生物学：島に生きる動植物の織りなす物語を読み解く」

12月2,3日(土・日) 企画者：渡邊謙太(沖縄高専)・阿部晴恵(新潟大学)・水澤怜子(福島大学)・安藤温子(国立環境研)・平岩将良(近畿大学)・丑丸敦史(神戸大学)

島は進化の実験場ともいわれ、古くから生態学・進化生物学において重要な題材を提供し、関連分野に大きな影響を与え、数多くの理論を生み出してきた。近年、この島嶼生物学(Island Biology)分野では、世界中の島嶼域を対象とする大規模な比較研究が増えており、国際共同研究の重要性が増している。2023年には島嶼生物学の国際学会が正式に発足するなど、全球規模の情報共有が進みつつある。また様々な技術の進歩によって、新たな研究の展開も可能となってきた。

一方、日本でもこれまでに、伊豆諸島、小笠原諸島、琉球列島、佐渡ヶ島など、様々な離島において優れた島嶼生物学的研究が行われてきた。日本は大陸辺縁に南北に連なる1万を越える島々からなり、複数の島弧を内包する複雑な構成で、比較研究が可能な島も多い。そのため大陸からの分散やその後の分化過程、島ごとに異なる組み合わせの種間関係など、島嶼研究に最適な環境であるといえる。日本が島国である以上、離島に限らず日本列島における生態学・進化生物学的研究は、すべて島嶼生物学的研究として捉えることも可能なはずである。

このような日本発の「島嶼生物学」研究は現在の世界の“Island Biology”の中では、その内容相応には認知されているとはいえない。しかし、動植物の生活史や種間関係などを丁寧に観察し追求していく、自然的・種生物学的研究は日本の研究の持ち味であり、世界の“Island Biology”に与えるインパクトは大きいと考えられる。本シンポジウムでは、日本発あるいは日本人研究者による様々な「島嶼生物学」研究を紹介し、日本の生態学・進化生物学的研究がこれからの“Island Biology”の中でどのように展開しうるか考えたい。

12月2日(土) 第一部

- 14:40-15:30 趣旨説明 「古くて新しい島の生物学／島研究の実際」
 渡邊謙太・阿部晴恵・水澤玲子・安藤温子・平岩将良・丑丸敦史

- 15:30-16:20 「海洋島固有植物の分岐による種分化と分岐によらない種分化」
高山浩司（京都大学）
- 16:30-17:20 「ヤポネシアゲノムプロジェクトの成果」
斎藤成也（国立遺伝学研究所）
- 12月3日（日） 第二部
- 9:00- 9:05 趣旨説明
- 9:05- 9:55 「日本列島の植物地理」
中村剛（北海道大学）
- 9:55-10:40 「小笠原西之島の噴火により失われた昆虫相と現在」
岸本年郎（ふじのくに地球環境史ミュージアム）
- 10:50-11:35 「島ごとに違う捕食者に適応したトカゲの防衛戦略」
栗山武夫（兵庫県立大学）
- 11:35-12:20 「陸産貝類の殻色による海洋島環境への適応進化」
伊藤 舜（伊豆大島ジオパーク/東邦大学）※オンライン配信なし
- 12:20-13:20 昼食休憩
- 13:20-14:05 「島の淡水性回遊魚の分散と生態：佐渡と沖縄の例から」
飯田碧（新潟大学）
- 14:05-14:50 「日本で行う島の鳥類標識個体群の長期研究」
澤田明（国立環境研究所）
- 14:50-15:30 総合討論

● 参加・ポスター発表申し込み【10月27日（金）まで】

参加申込みフォーム（<https://forms.gle/aWxhSFsbPxeNX9YW6>）からお申し込みください。

- 参加費は、一般 10000 円、学生 5000 円（非会員の方は参加費、懇親会費が 1000 円ずつ up）です。合宿参加の場合には、懇親会費 6000 円（一般）、4000 円（学生）、宿泊費 6000 円（2泊朝食込み）、食事代 3000 円（昼・夜の合計 3 食分）がかかります。
- オンラインと 2泊 3日フル参加では一般 25000 円、学生 18000 円になります。
- 託児を利用される方は、参加申し込みフォームにてお申し込みください。
- 今回のシンポジウムは、非会員でも聴講いただけますが、ポスター発表は種生物学会員に限り受け付けます。
- ポスター発表を希望する方は、参加申し込みフォームで「ポスター発表を申し込む」にチェックをしてください。ポスター発表の申込者（発表者）は、2023 年度分の種生物学会会費を納入済の会員に限ります。
- 非会員の方でポスター発表を希望の方は、事前に種生物学会への入会をお済ませください。入会手続きは、種生物学会ホームページから行うことができます。ホームページの入会案内にしたがって、今年度分の会費（一般会員 6,000 円／学生会員 3,000 円）を 10 月 27 日（金）までにお振り込みください。会費の振り込みが確認できない場合は、発表申込みをキャンセルさせていただきます。
- ポスター発表が優れていた発表者には、「種生物学会ポスター賞」および「河野昭一ポスター賞」を授与しています。「河野昭一ポスター賞」は、発表者を学部学生および修士課程の大学院生に限定したポスター賞です。

- シンポジウムへのオンサイトでの参加は申込締切以降は出来ませんが、オンラインでの聴講に限り締切後の登録も可能とする予定です。ただし、できるだけ締切までに参加登録をしていただけますようお願いいたします。

● **ポスター発表要旨の登録【11月3日(月)まで】**

- 発表要旨は、登録フォーム (<https://forms.gle/TC1CpFSg1XS4qSQA9>) から登録をお願いいたします。

● **ポスター発表について**

- LINC Biz のチャンネルが発表ブースとなります。LINC Biz にポスターを画像形式でアップロードし、チャットおよびビデオ会議 (Zoom のブレイクアウトルームを使用予定) で質疑応答を行うことができます。ポスターのダウンロードは出来ませんが、スクリーンショットを撮影される危険性は排除できません。なお、11月25日(土) 13:15 より、発表内容を PDF スライド 1 枚にまとめて 30 秒で紹介する「フラッシュトーク」の時間を設けます。11月19日(日)までにフラッシュトーク用 PDF スライドをご準備ください。後日、PDF ファイルのアップロード先をお知らせします。

● **要旨集について**

- 今年度は冊子体の要旨集を発行しません。参加者には、電子媒体の要旨集がダウンロードできる URL をご連絡します。

● **第 55 回種生物学シンポジウム実行委員会 (五十音順)**

柿嶋聡 (昭和大学)、加藤淳太郎 (愛知教育大学)、常木静河 (愛知教育大学)、花井隆晃 (テクノ中部)、増田理子 (名古屋工業大学)、村中智明 (名古屋大学)

問い合わせ先 : sssb2023aichi@gmail.com (at を@に置き換えて下さい)

第54回 種生物学シンポジウム（つくば）の記録 2022年11月26日（土）ポスターセッション・オンライン 12月2日（金）～4日（日）オンサイト・オンライン

片岡奨励賞受賞講演会

中臺亮介(国立環境研究所) 生物多様性研究の多
様性に魅せられて

基調講演

寺内良平(京都大学) Genetics, Recombination,
Disease and Evolution

和文誌編集委員会企画シンポジウム「多種共存の生 態学：植物の多様な共存機構を探る」

企画者：企画者：勝原光希(岡山大学)・篠原直登
(東北大学)・松本哲也(岡山大学)

松本哲也(岡山大学) 多種共存の前提条件としての
生殖的隔離

小野田雄介(京都大学) 「植物の形質多様性を規定す
るトレードオフと多種共存機構」

三木直子(岡山大学) 「乾燥地における種間作用：匍
匐性灌木の被覆が下層植生に与える影響」

門脇浩明(京都大学) 「温帯林の樹木群集における多
種共存研究：植物土壌フィードバック実験から長
期生態系観測まで」

勝原光希(岡山大学) 「先行自家受粉の進化が送粉者
を介した繁殖干渉下の共存を促進する」

篠原直登(東北大学) 「共存理論で何をどうやってテ
ストするか」

コメンテーター：永濱藍(国立科学博物館)・矢原徹
一(九州オープンユニバーシティ)・山道真人(ク
イーンズランド大学)

総合討論

ポスター発表

赤尾智宏(明治大院・農)、倉本宣(明治大・農) ナ
ラ枯れ伐採跡地に生育するタマノカンアオイの保
全に向けての考察

阿部周平、石崎智美(新潟大学 院 自然科学) イチゴ
ハムシの食草選択における食草の資源量が与える
影響について

岩井耀士(新潟大・院・自然科学)、石崎智美(新潟
大・自然科学) 草本植物におけるアリ送粉と生育
環境の関連性

*河野昭一ポスター賞 長田拓之(横国大・院・先進実
践)、倉田薫子(横国大・院・先進実践) マタタビ
が花期に展開する白色葉についての解剖学的考察
—マタタビの白色葉は葉なのか苞葉なのか—

加藤大己(龍大院・農)、永野惇(龍大・農、慶応大・
LAB) Google Trends を用いた生物季節観測

木時始穂、唐振興、三村真紀子(岡山大・自然) キ
イチゴ属の分布限界域における交雑帯は親種に適
応的遺伝資源を供給するか

木下雄輝、小宮山佳奈、阿部周平、星智大、石崎智美

(新潟大学・院・自然科学) イヌタデ属植物の被
食防衛戦略と生育環境との関わり

工藤葵、杉原優、太田敦士、堺俊之(京都大)、寺内
良平(京都大、岩手生工研) 上向きのオスと下向
きのメス：雌雄異株植物オニドコロのオス花序は
青色光に応答して上を向く

幸元秀行(九大)、秦有輝(東北大)、経塚淳子(東
北大)、梶田結衣(琉大)、遠山弘法(国環研)、永
濱藍(科博)、佐竹暁子(九大) 温暖化に伴う開花
フェノロジーシフト：鍵となる春化とジベレリン
合成経路

小茂尻 真凜(京大・生態研)、潮 雅之(香港科技大
学)、武田 和也(龍大・食農研)、酒井 章子(京
大・生態研) 花上微生物叢が種子内微生物叢に与
える影響 —野生植物アカメガシワを用いた接種
実験による検討—

近藤 一宏(福井県大・生物)、坂田 ゆず(秋田県大・
生物)、鈴木 智之(東大・演習林)、梅村 信哉(福
井市自然史博物館)、角田 智詞(福井県大・生物)
外来昆虫シタバニハゴロモの利用植物は生育ステ
ージで変化する

近藤輝留(信州大)、田路翼(東京大)、中瀬悠太(信
州大)、市野隆雄(信州大) キツリフネの開花時期
の分化を伴った局所適応：相互移植実験による検
証

*ポスター賞 櫻井裕介(新大・自然)、湊菜未(新大・
農)、林八寿子(新大・理)、石崎智美(新大・理)、
和泉翔太(龍大・農)、吉田拓馬(龍大・農)、塩尻
かおり(龍大・農) 雑草の匂いがトウモロコシを
甘くする

*河野昭一ポスター賞 佐々木 陽依(弘前大学)、山尾
僚(弘前大学) 樹木における葉脈構造の進化プロ
セスの解明

塩澤陸・川窪伸光(岐大院・自科) アリ類の行動解
析に基づく植物表面形態の構造と機能の理解

菅原早紀、川窪伸光(岐阜大院・自然科学) 淡水性
カメ類の果実採食と排泄行動・明らかにしつつ
ある、カメ類の種子散布

杉本健介(日大院)、小泉敬彦(東農大)、福島慶太
郎(福島大)、井上みずき(日大) 山岳風衝地内の
マイクロハビタットがコケモモの栄養成長に与え
る影響

*ポスター賞 杉山瑞(弘大・農生・生物)、池田紘士
(弘大・農生・生物) ヨモギに形成される虫こぶ
から広がる多様性の高い寄生蜂群集

瀬尾 夏未(神大院・人間発達環境)、丑丸 敦史(神
大院・人間発達環境)、船本 大智(東大・理・植物
園)、阪上 洗多(加西農業改良普及センター) ス
ペシャリスト送粉者がもたらすカラスウリの性的
二型の進化

***ポスター賞** 高木健太郎 (筑波大学)、大橋一晴 (筑波大学) 遠くの同種より近くの他種: 植物種の混生パターンに依存した送粉昆虫の定花性の変化

田口裕哉、高橋大樹 (東北大・農)、伊東拓朗 (東北大・植物園)、田金秀一郎 (鹿児島大・博物館)、菅原峻太 (東京学芸大・教育 / 都立大・牧野)、小栗恵美子 (東京学芸大・教育)、阿部晴恵 (新大・佐渡セ)、陶山佳久 (東北大・農) オキナワハイネズを中心とした国内ビャクシン属種群の分子系統地理学的解析

友國秀斗・草竹恵実・柳洋介 (岡山大)・前田綾子 (牧野植物園) 狩山俊悟 (倉敷市立自然史博物館)・廣田峻 (大阪公立大)・陶山佳久 (東北大)・三村真紀子 (岡山大) 同倍数性のイカリソウ属はどのように種分化したのか?

中野崇平 (神戸大学)、丑丸敦史 (神戸大学) オニタビラコ 2 亜種の都市・里山間における分布と種子散布形質の差異

濱田若夏子 (千葉大・院・融合)、高橋佑磨 (千葉大・院・融合) ネジバナにおける花序形態の多様性と繁殖成功率

早川貴将、相田大輔、高木雄登、大原雅 (北大・院・環境科学) カワユエンレイソウはどこに?

平山楽 (神戸大・人間発達)、丑丸敦史 (神戸大・人間発達) *Habitat preference influences response to agricultural intensification and urbanisation in two long-horned bees*

丸山真穂 (新潟大・院・自然)、戸田真一 (新潟大・院・自然)、石崎智美 (新潟大・院・自然)、宮本俊彦 (新潟県立高田南城高校) ギフチョウとカンアオイの地理的変異の関連性

夫婦石千尋 (九大)、今井亮介 (九大)、矢原徹一 (QOU)、佐竹暁子 (九大) コナラ属の「1 年成り」と「2 年成り」はどちらが祖先的な形質なのか?

本宮万愛、高橋大樹 (東北大・農)、田金秀一郎 (鹿大・博物館)、内貴章世 (琉球大・熱生研)、渡邊謙太 (沖縄高専)、伊東拓朗 (東北大・植物園)、陶山佳久 (東北大・農) 地史および人為によって形成された琉球列島におけるリュウキュウチク節分類群の遺伝的集団構造

儀武混大 (産総研)、渡邊謙太 (沖縄高専)、井口亮 (産総研) 琉球列島産ボチョウジ属近縁 2 種の土壌適応と遺伝子発現パターン

立松 和晃 (福井市自然史博物館、岐大・連農)、岡本朋子、土田 浩治 (岐大・応生) ツルニンジン属の花に見られる地理的変異

塚原一颯、土田浩治、川窪伸光 (岐大・連農) 雌雄両全性異株であるノマアザミ頭花におけるアザミウマ類

都築洋一 (北大・環境科学)、佐藤光彦 (かずさ DNA 研究所)、大原雅 (北大・環境科学) 遺伝情報から推定されたオオバナノエンレイソウの生活史サイクル

中田泰地 (神戸大・発達)、丑丸敦史 (神戸大・発達) 多様な都市環境における在来植物の適応戦略の多

様性・一年生草本ツユクサを用いて・[Native plant adaptation strategies to diverse urban environments]

永野裕大 (東大・農) 訪花者の活動性と訪花植物の変化が駆動する送粉ネットワークの日周変動

星野佑介 (学芸大・院・連合)、堀江佐知子 (東北大・植物園)、牧雅之 (東北大・植物園)、堂園いくみ (学芸大・環境) 外来種と同所的に生育するカタバミは異種花粉を排除しているのか?

吉田直史 (東北大・生命)、森長真一 (帝京科学大・自然)、彦坂幸毅 (東北大・生命) ハクサンハタザオの低温耐性の標高間変異: エコタイプ間比較および F2 集団の観察から見えてくる遺伝的背景

李 俊男 (京大・生態研)、酒井 章子 (京大・生態研) 花の表面微細構造が送粉者の閉じ込め/解放を制御する: ウマノズクサにおける検討

甘田岳 (JAMSTEC, UAF)、岩花剛 (UAF)、野口享太郎 (FFPRI)、松浦陽次郎 (FFPRI)、小林秀樹 (JAMSTEC, UAF) アラスカ永久凍土傾度におけるイソツツジ亜節 2 種の個体群と葉形質変異

磯田珠奈子 (京都大学理学研究科)・小山時隆 (京都大学理学研究科) ウキクサ植物の他種混合培養による花成誘導解析

奥山雄大 (科博・植物園)、柿嶋聡 (科博・分子多様性センター)、Anna Valchanova (東大・理)、福島健児 (University of Würzburg) カンアオイ属をモデルとした「臭い花」の進化メカニズムの解明

北村系子 (森林総研・北支)、中西敦史 (森林総研・北支)、石塚航 (道総研・林試)、後藤晋 (東大・演習林)、津山幾太郎 (森林総研・北支)、種子田春彦 (東大・理)、久本洋子 (東大・千葉演)、内山憲太郎 (森林総研・樹木遺伝) 十勝岳トドマツ天然林における高標高帯分布限界集団の遺伝的分化

工藤 洋 (京大・生態研)、村中 智明 (鹿児島大・農)、伊藤 佑 (オーストリア科技研)、西尾 治幾 (滋賀大・データサイエンス研)、本庄 三恵 (京大・生態研) 低温馴化に対する遺伝子発現応答における季節の効果

坂田ゆず (秋田県立大)、加藤愛唯 (秋田県立大)、小林慧人 (森林総研) タケ・ササ類の花食者ササノミモグリバエの寄主植物利用

高野 (竹中) 宏平 (長野県環境研)、三宅崇 (岐阜大・教育)、Peter J. MATTHEWS (民博)、吉橋佑馬 (筑波大)、大坪雅 (宮崎大・農/京大・生態研セ)、稲葉靖子 (宮崎大・農)、屋富昌呂子 (那覇市)、戸田正憲 (北大博物館) タロイモシヨウジョウバエ属 *Colocasiomyia* spp. の近年の国内採集記録

武田 和也 (龍大・食農研、京大・生態研)、酒井 章子 (京大・生態研) 花・花上細菌相互作用の年変動性

永濱藍 (科博)、田金秀一郎 (鹿大)、陶山佳久 (東北大)、矢原徹一 (QOU) 南ベトナムの熱帯山地林における樹木の展葉・開花・結実フェノロジー

永光輝義 (森林総研) 北大ハナバチ相の 60 年間の変化：土地利用が属の採集個体数に与えた影響
野村康之 (龍谷大・食農研)、永野惇 (龍谷大・農, 慶応大・IAB)、冨永達 (京都大・院農) チガヤ 2 生態型およびその F1 雑種のクローン多様度の比較
古川沙央里 (京大・生態研、龍大・農)、川北篤 (東大・理・植物園) カンコノキの寄生的な送粉者は共生的送粉者を脅かすのか? ~地理的分布と遺伝的構造に着目して~
前田 将輝 (拓大・工) 数値シミュレーションによる葉面まわりの気流の検討
村中智明 (鹿大・農)、工藤洋 (京大・生態研)、小山時隆 (京大・理) アオウキクサ属の長日・短日植物の比較トランスクリプトーム
湯本原樹 (京都大・生態研)、工藤洋 (京都大・生態研) 常緑草本ハクサンハタザオにおける夏季の温度耐性の時系列変化

渡部俊太郎 (鹿児島大)、船津若菜 (北海道大)、武分亮洋 (鹿児島大)、相場慎一郎 (北海道大) 標高勾配に沿ったナツツバキ属 2 種の分布パターンとその制限要因

ポスター賞受賞者

<種生物学会ポスター賞>

櫻井裕介 (新大・自然)
杉山瑞 (弘大・農生・生物)
高木健太郎 (筑波大学)

<河野昭一ポスター賞 ※>

長田拓之 (横国大・院・先進実践)
佐々木 陽依 (弘前大学)

※ 筆頭発表者を学部学生と大学院生 (修士) に限定した奨励的ポスター賞です。

事務局からのお知らせ

電子メールアドレス更新のお願い——

種生物学会では、さまざまな情報を電子メールで配

事務局の連絡先は office@speciesbiology.org です

信しています。メッセージが届かない方は、電子メールアドレスが登録・更新されておりませんので、事務局までご連絡ください。(庶務幹事 水口 亜樹)

会計報告

種生物学会 2022年度 決算

期間:2022年1月1日~12月31日

種生物学会 2023年 予算期間:2023年1月1日~12月31日

収入の部	2022年予算額	決算額
国内会員会費	1,600,000	1,603,084
片岡基金繰り入れ	226,785	219,015
著作権料	100,000	208,228
その他(利息)	20,000	14
小計	1,946,785	2,030,341
前年度繰越金	9,527,893	9,527,893
合計	11,474,678	11,558,234

支出の部	予算額	決算額
出版費	2,000,000	0
和文誌42号 和文誌43号	2,000,000	0
事務費	300,000	25,920
発送費	150,000	18,720
冊子発送作業費	100,000	0
その他	50,000	7,200
ウェブサイト維持管理費	66,000	126,500
シンポジウム補助金	300,000	180,385
片岡奨励賞副賞	100,000	50,000
PSB論文賞副賞・郵送料	30,000	33,178
交通費	70,000	0
自然史学会連合分担金	20,000	20,000
日本分類学会連合分担金	10,000	10,000
男女共同参画連絡会分担金	10,000	10,000
予備費	20,000	0
小計	2,926,000	455,983
次期繰越金	8,548,678	11,102,251

収入の部	2023年予算額
国内会員会費	1,600,000
片岡基金繰り入れ	0
著作権料	100,000
その他	20,000
小計	1,720,000
前年度繰越金	11,102,251
合計	12,822,251

支出の部	2023年予算額
出版費	3,000,000
和文誌42号 和文誌43号 和文誌44号	3,000,000
事務費	350,000
発送費	200,000
冊子発送作業費	100,000
その他	50,000
ウェブサイト維持管理費	126,000
シンポジウム補助金	300,000
片岡奨励賞副賞	100,000
PSB論文賞副賞・郵送料	30,000
交通費	70,000
自然史学会連合分担金	20,000
日本分類学会連合分担金	10,000
男女共同参画連絡会分担金	10,000
予備費	20,000
小計	4,036,000
次期繰越金	8,786,251
合計	12,822,251

会員数

(2023年9月21日現在)

個人会員	321
一般会員	265
学生会員	56

(会計幹事 下野 嘉子)

種生物学会ニュースレター 第56号

発行 種生物学会
<http://www.speciesbiology.org/>編集 水口 亜樹 (庶務幹事)
〒910-4103 福井県あわら市二面 88-1
福井県立大学あわらキャンパス内 種生物学会事務局

発行日 2023年10月2日